

Global Education Network for Sustainable Future Hiroshima (GENS)

～ グローバルな視野とローカルな視点からの学び ～

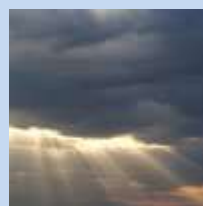
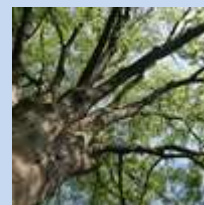
Newsletter No.8
2015.11.15.

事務局 kyoikujuku.hiroshima@gmail.com
URL <http://genshiroshima.web.fc2.com/>
〒730-0006 広島市中区袋町6番36号
広島市まちづくり市民交流プラザ内 メールボックスNo.7

地球市民共育塾ひろしま



Have a Dream...
Do the Action!
for
the Better Future



世界中の人々が一人ひとりに幸せに生きられる。そんな社会を願う人々の「出会い」と「学び」と「行動」の場です。「貧困」「難民」「食」「平和」「ジェンダー」「教育」。取り扱うテーマも十人十色。「開発教育」に関心のある人なら、だれでも参加できます。参加型の学習会を定期的に行っています。

～ あなたも地球市民共育塾ひろしまで一緒に学びませんか？ ～



ESDとGAPについて

世界の環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題の解決をめざす「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development、略してESD)の推進のために、国連とユネスコは、2005年からの10年間を『持続可能な開発のための教育の10年』と定め、世界各国で様々な取り組みが展開されてきました。

持続可能な開発のための10年の最終年あたる昨年2014年の11月、「ESDに関するユネスコ世界会議」が日本で開催され、「国連ESDの10年」の後継プログラムとしてグローバル・アクション・プログラム(GAP)が正式に決定されました。

GAPの目標は、持続可能な開発を加速するために、教育・学習の全ての段階・分野で行動を起こし強化することで、全ての人々が知識、技能、価値観、態度を得る機会を持つために教育・学習を再方向付けし、持続可能な開発に貢献し、実際に成果を上げるよう能力向上すること及び、持続可能な開発を促進する全ての関連アジェンダ・プログラム・活動において教育・学習の役割を強化することを目標としています。

原爆展からの学び～場づくりという社会参加～

舟木耕太（青年海外協力隊・モザンビーク）

私は今、広島県の中学校教師として、現職教員特別参加制度を利用し、数学教師としてモザンビークに派遣されている。この国での生活も1年を迎えようとしていた6月25日、モザンビークは独立40年の記念日を迎えた。

この日、独立から今日までの歩みを地元の友人が語ってくれた。独立運動、その後17年続いた内戦により、たくさんの犠牲を払ったモザンビーク。

「かつてのような植民地支配や内戦の時代に逆戻りしないように、大切なのは教育だ。」

彼の話は、教師である自分の襟を正す、力強い言葉で締めくくられた。

そして8月を迎える。戦後70年。独立40周年のモザンビーク同様、今年は日本にとっても節目の年だ。8月が近づくと、日本にいなくても戦争や平和について考えさせられる。広島出身、かつて日本で起きたことにも海外で起きたことにも、無関心ではいたくない。

「過去の過ちを繰り返さないために、自分に何ができるか？」

そんなことを考えながら時事問題にも目を向ける。市民一人ひとりの社会参加の必要性が叫ばれていると感じる。一人の市民として、それぞれが力を持っていること、そして、それぞれがかけがえの無い存在であるということ。

「起きていることにしっかり目を向けて、自分の意見を持てる人になろう」

「自分で声をあげられる人になろう」

教師として生徒に関わる中で、自分が大切にしたいことはこれではないか？ESDや市民教育というキーワードに関心が高まる。

モザンビークも日本も関係なく、自分が教師としてどう振る舞うかを考える。そんなきっかけに溢れた日々だ。

そして8月6日、9日を過ぎ、8月15日が近づく。日本の終戦記念日でもある8月15日、活動先で「原爆展」を開催することになっていた。

青年海外協力隊として活動する隊員が、任地で自主的に開催している原爆展。広島市から資料を借りて、これまでも世界の60カ国以上で開催されているものだ。

広島出身の隊員として、原爆展の開催は去年から悩んできたものだ。

「言葉の問題もある、中途半端な説明で想いが伝えられないのであれば、形だけの開催であれば、わざわざ資料を借りてまでやらないほうが良い。」

平和、戦争、ヒロシマ…重たい言葉に「自分なんか」と縮こまる自分もいた。

それでも開催を決めた後押しとなったのは、最近の時事問題などから考えた市民教育の必要性だ。自分が押し付けるのではない、きっかけとしての場、みんなで考える場を作れたら良いな。

初めての大きなイベントの企画。資料が予定通り届かないことによる不安。学期休みの開催、何人の参加者が集まるか分からない不安。もっと言えば、この国での活動は日頃から想定外のことが多いという不安。

「本当にうまくいくのだろうか？」

不安を抱えながら前日を迎える。

この国で活動する日本人の隊員や地元の友人が準備を手伝いに来てくれた。

当日の朝も、日頃は遅刻が当たり前の同僚や生徒が、時間通りに来て手伝ってくれる。

「今日は、大切なイベントだからね！楽しみにしているよ。」

想いがあれば、一緒に動いてくれる仲間がいる…胸が熱くなった。

簡単なクイズやオープンな質問を盛り込んだ、ワークシート、日本人の協力を得ながら折り鶴のワークショップ、それぞれの考える「平和」が見えるような寄せ書き、日本文化や日本食の紹介など、ただ展示を見て終わらないように工夫した。

今回お借りしたポスター、映画はポルトガル語で翻訳されたもの。特に、ポスターについては最近出来たものを初めて海外で使わせてもらった。ポルトガル語の資料の力はとても大きく、多数の言語で翻訳されるということの必要性を改めて実感した。

「被害者や加害者を判別するための原爆展じゃない。これからの平和を築くために、たくさんの国が戦争に突入してしま



ったという歴史から学ぶことが大切だ。あなたの身の回りの大切な人、特に弱い立場の人の日常や命が奪われるのが戦争だと思う。」

参加者に自分の思いも語った。

「今でも核兵器は世界中に溢れている。社会がどういう方向に進んでいるかに目を向けること。まずは自分の国から。みんなが大切な社会の一員であると同時に、力を持った一人として社会に関わる責任があると思う。学校でも、自分の意見をもつ、自分で考える習慣をつけよう。」

生徒や同僚、友人にだけでなく、自分自身に向けても語りかけている。

これまで、開発教育を学校内ではいくらか実践してきた。でも、よく考えればそこには、「授業」という、前もって与えられていた「場」があった。

学校を出たらどうか？

自分も社会に責任を持って関わりたい…そう考えたとき、日本にもさまざまな市民の学びの場がある。そうやって、すでに誰かの準備した「場」に参加することはあっても、自分から「場」を作り出す努力はしてこなかった。

そう考えると、今回の原爆展の開催は、初めて自分から呼びかけて集まってもらった学びの「場」であった。

「参加者にとって、学びのある場になっただろうか？」

今後の取り組みにつなげるため、アンケートに目を通しながら考える。

自分だけの視点で今回の原爆展を総括することは出来ない。

「あなたにとって平和とは何ですか？」

今回配布したワークシートに書いてもらった最期の質問。これも1つにまとめるのは難しい。それぞれが責任を持ったかけがえの無い一人として意見を持つことが大切だと思う。

スッキリしない、楽ではない、終わりが無い、答えが無い…

でも、考える努力を続けなければならない。

平和は何の努力もなしにそこにあるものではない。対話をしながらみんなで築いていくもの。だから、みんなで考えられる場が必要。「無関心」から「関心を持つ」ためのきっかけの場が必要。日本に限らず、日頃から市民の学びの「場」づくりに尽力されている、実践家の方々に頭の下がる思いだ。

これまでは、そういう実践家の方々を、遠い存在として尊敬していることが多かった自分。でも自分も、ただ受け身ではなく、積極的に実践していける一人でありたいと思った。

「自分なんかに」という気持ちはある。

でも、今回の原爆展のように「自分が伝える」と思うのではなく、肩の力を抜いて、みんなで考える場なら自分にもできると感じた。それに、場をつくろう！と声を上げれば支えてくれる仲間もいることに気づいた。（これが一番嬉しいことだったかもしれない。）

自分も一人の市民として、それぞれが力を持っていること、そして、それぞれがかけがえの無い存在であるということをおぼえてはいけない。

無関心から関心を持つ側へ。

そして次は関心を持つだけでなく、そのきっかけの「場」をつくる側へ。



～共育塾と言えば?交流会・打ち上げ会・飲み会!～



入会のご案内

私たちは、**地球市民共育塾ひろしま**です。開発教育・国際理解教育・地球市民教育の学びあいを目的とした市民サークルです。

参加型の活動を取り入れたワークショップを通して、参加者が共にグローバルな視野やローカルな視点から考え合い、学び合う活動を行っています。

現在、共育塾には170人以上の会員が登録しています。その職業も、教職員、会社員、国際協力関係者、研究者、大学生・院生と多様です。

毎回ワークショップでは、メンバーがそれぞれの関心のあるテーマを取り上げ、ワークショップのプログラムを企画・実施しています。現在の主な活動は、例会ワークショップの開催、「広島市まちづくり市民交流フェスタ」へワークショップ企画による参加、「広島市国際交流・協力の日」への展示ブース出展、教材づくり勉強会の開催などです。

共育塾のワークショップなどの案内をご希望の方は、下記の申込書で事務局までお申込みください。または、下記内容を事務局アドレス宛に送信下さい。メーリングリストに登録させていただきます。

共育塾からの案内・情報提供は原則としてメーリングリストで行いますが、メールの環境のない方のみ、ファックスでお送りします。ご希望の方は、その旨をお書きください。

みなさまのご入会をお待ちしています。

地球市民共育塾ひろしま事務局メールアドレス：kyoikujuku.hiroshima@gmail.com

お申込みの個人情報は、事務局で責任を持って保護・管理し、会の運営以外の目的で使用することはありません。入会金・年会費は無料です。例会への参加時に参加費(実費)を頂いています。

-----切り取り線-----

入 会 申 込 書

「地球市民共育塾ひろしま」の活動の趣旨に賛同し、入会を希望します。

地球市民共育塾ひろしまメーリングリストへの登録をお願いします。

お名前		ご住所:〒	
TEL	FAX	(パソコンでご受信可能な)メールアドレス :	
地球市民共育塾ひろしまの活動に期待すること、また、他に活動されていることがあればお書きください。			

○お寄せいただいた個人情報につきましては、事業運営の目的以外には使用致しません。